

はじめに

本報告書は、1976（昭和51）年10月29日に起きた酒田大火を中心に、青森県・秋田県・山形県における江戸時代以来の主要な都市大火を取り上げ、火災の原因からはじめて、大火の状況や消火活動、復興に至る過程などを分析し、教訓を導き出したものである。酒田大火の全体像を、当該地域の地形・気象・歴史の中で総合的に把握することを目指している。

当分科会は、地震・火災工学など理系の研究者と近世・近代史など文系の研究者、自治体で危機管理を担当している行政の職員などで構成した。計6回開催した分科会では、上記の各都市大火の解明に取り組み、その特徴を検討した。本報告書のねらいと構成は、次の通りである。

ねらい 当該地域における各資史料の災害記事が語るように、当時の人々に最も恐れられていたのが火災であった。太平洋側と違って、冬季の強風による当該地域の火災は、瞬く間に大火災へと拡大し都市を焼亡した。本書のデータベースを一覧いただくと判明するように、頻繁な都市火災を誘発した近世の状況は、近代に入っても余り変化はなかったといっても過言ではない。このような歴史的状況にかんがみ、我々は酒田大火を単発的に取り上げるのではなく、近世に都市成立起源を持つ当該地域の各都市の大火を分析することで、酒田大火に通底する共通の原因若しくは歴史的な背景が存在するのではないかと考え、各都市の大火を取り上げることとした。本書におけるコンセプトは、以上のような点にあり、それにしたがって近世から近現代に至る代表的な各都市大火の実態を解明した。

構成 目次をご覧いただければおわかりのように、全体は、第1編から第5編までとコラム、別編の構成とした。

第1編の「東北地方の地形・気象」では、日本海北部の沿岸都市である青森・能代・秋田・酒田などの地形的な特徴、気候の特性、火災発生時の気象状況、火災危険度の比較などを取り上げた。

第2編の「前近代における北部日本海地域の大火」では、江戸時代における青森・秋田・山形県域の各大火を取り上げて、大火の実態と特徴、各都市の消防体制、民衆の救済活動などを明らかにした。

第3編の「近現代における北部日本海地域の大火」では、明治・大正・昭和期における青森・秋田・山形県域の各大火を取り上げて、大火の実態と特徴、各都市の消防体制、自治体などによる救済活動などを明らかにした。中でも、1894（明治27）年10月22日の庄内地震による酒田大火は、我が国の地震観測史上最初期に起きた内陸地震による第二次災害として、注目すべきものである。

第4編の「1976（昭和51）年の酒田大火」では、酒田大火の実相をより詳細に記述したもので、気象状況など同大火の経過からはじめて、被害の実態と市民生活、復興の歩み、大火後の防災対策などを詳述している。

第5編の「酒田大火並びに北部日本海地域都市の大火の教訓」は、本書のまとめの意味も含めて、当該地域の江戸時代と近現代における大火の特徴と教訓を述べた。中でも、酒田大火については、応急対応力、燃えない街づくり、自主防災組織、自助・共助の意識、住民への広報・情報伝達、防災意識などの観点から、多岐にわたる教訓を導き出している。

コラムの「大火のフォークロア」では、当該地域における民俗伝承を取り上げ、人々の火に関する慣習や火災にまつわる意識などを取り上げている。

別編の「酒田大火並びに北部日本海地域都市の大火データベース」は、慶長6（1601）年から1976（昭和51）年の酒田大火に至る、当該地域375年間の、約100軒以上の家屋を焼失させた大火のデータベースである。

本書の意義など ところで、従来の都市災害研究は、江戸など三都のそれを中心に進められてきたが、本書においては、近世から近現代に至る各地方都市の大火災害と消防、救済と復興の過程を論述した。このことは今後、近世地方都市の大火に関わる災害教訓の何が継承され、何が近現代に継承されなかったのか、都市計画や行政による災害への対応を考慮する上でも多くの素材を提供したといえよう。また、近代に入ってから、陸軍による災害救助が実施された例があり、これも現代における自衛隊の災害出動を考えるのに資するのではなかろうか。

なお、口絵に掲載した酒田大火の航空写真や消防活動を写した写真類は、従来、このような形でまとまって公開されることがなかったものである。今回、酒田市のご協力を得て、本書に掲げることができた。衷心より感謝申し上げたい。

本年は、奇しくも酒田大火の30周年にあたり、本報告書は、まさに記念すべき年に刊行されたわけである。幸いなことに、酒田大火後、我が国においては阪神・淡路大震災などを除いて、大規模な都市火災は発生していない。我々分科会委員一同、今後もこのような大規模都市火災を未然に防ぐために、本報告書の成果が大いに貢献できればと考えている。